

新しい時代にふさわしい学力の育成

校 長 田 中 広 矛

「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）」や「IEA国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）」、「全国学力・学習状況調査」などの結果から見ると、日本の子どもたちは、基礎的な知識・技能は身につけているものの、知識・技能を実生活の場面に活用する力つまり、日本の子どもたちは「生きる力」が弱いということがわかりました。これらの課題を受け、平成25年度入学生から、現行の学習指導要領が完全実施されるようになりました。現行の学習指導要領は、子どもたちの現状をふまえて「生きる力」を育むという理念を継承し、知識や技能の習得のみならず思考力・判断力・表現力などの育成を一層重視しています。さらに、道徳教育も重視されることとなりました。これからの教育に必要なものは、「詰め込み」でも「ゆとり」でもなく、社会の中で逞しく「生き抜く力」ということです。

「生きる力」とは、「確かな学力（＝基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し解決する力）」・「豊かな人間性（＝自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性）」・「健康と体力（＝逞しく生きるための健康や体力など）」のバランスのとれた力のことです。

私たちを取り巻く社会の状況は、グローバル化が急速に進展し、さらに競争と技術革新が絶え間なく起こる「知識基盤社会」が本格的に到来しようとしています。このような変化の大きな社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知や価値を作り出していく能力が求められます。

また、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争が加速するとともに、異文化との共存や国際協力の必要性が増大しています。そのため、これからの社会を生きる日本の子どもたちには、自ら課題を発見し解決する力・コミュニケーション能力・物事を多様な観点から考察する力・様々な情報を取捨選択できる力などが求められるようになりました。

さらに、平成27年1月に、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」（平成26年12月中央教育審議会答申）を踏まえ、体系的かつ集中的な施策展開を図ることを目的として、「高大接続改革実行プラン」が文部科学大臣決定として通知されました。このプランで重視される主な視点としては、

- ① 新しい時代にふさわしい高大接続の実現のためには、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜という三者の一体的改革に取り組むこと。
- ② 義務教育段階の取組の成果を発展させ、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を通じて、「知識・技能」のみならず、「知識・技能を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」や主体性をもって多様な人々と協働する態度などの真の学力の育成・評価に取り組むこと。
- ③ 大学入試センター試験のみならず各大学が個別に行う入学者選抜の改革を推進すること。などが挙げられています。

この「高大接続改革実行プラン」によって、大学入試センター試験はもちろん、各大学では教育理念やアドミッション・ポリシーに基づき、学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を踏まえた多面的・総合的な選抜方法をとるとともに、評価の推進や支援の充実を図らなければなりません。

高等学校においても、生徒に国家と社会の形成者となるための教養や行動規範、自分の夢や目標をもって主体的に学ぶ力を身に付けさせるために、言語活動の積極的な導入をはじめ、生徒が主体的・協働的に学ぶことを促す学習・指導方法や評価の研究、そのための指導体制の充実、教員の資質・能力の向上に向けた研修の改善等々を図る必要があります。本校では従来から、高い志をもって「入れる大学」ではなく、「入るべき大学」を目指して、知識・技能はもちろん思考力・表現力をしっかりと育成してきました。現在は、新しい学習指導要領や大学入試制度に対応するため、高等学校における学習・指導方法について、言語活動の積極的な導入をはじめ、生徒が受け身でなく主体的・協働的に学ぶことを促す方法へと進化を図っています。また、教員が、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びを重視した教育を展開することができるよう、きめ細かな指導体制の充実を図るとともに、教員の資質・能力の向上に向け、教員の養成・採用・研修の改善を図っています。

このような教育を実践するため、今回発刊する「岡山朝日研究紀要」第39号では、本校教員が日々研鑽を積み、創意工夫した研究論文を掲載しております。その弛まざる努力に対して、敬意を表します。また、この研究を進めるにあたり、ご協力やご助言をいただいた方々に篤く御礼を申し上げます。さらに、ご高覧くださった皆様方には忌憚のないご意見とご批判を賜り、本研究が一層の充実を図ることによって岡山朝日高等学校の教育活動全体が発展することを願って、ご挨拶とさせていただきます。